

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200073		
法人名	特定非営利活動法人 オーバー		
事業所名	グループホーム ももたろう		
所在地	大分県豊後大野市三五686番地		
自己評価作成日	平成23年1月21日	評価結果市町村受理日	平成23年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	厚生労働省のサーバーへ移行中につき現在、公表されておりません
----------	--------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チェリス古国府宮番館1F
訪問調査日	平成23年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が利用者の家族の一員として行動し、家庭的な環境作りに努め、また、それを可能のための方法を常に模索している。その他、外部の自然環境をいかし、外での活動も多く取り入れる。そして、利用者家族もスタッフの一員として考え、困った時等には協力してもらえる体制をいいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神楽の里で名を馳せる清川に位置する、木造平屋造り1ユニットのホームです。掃き出し窓の居室は、災害時に対応し易く、部屋に明るい印象を映し出しています。敷地内には、畑が作られ職員と共に野菜の育み、庭での散歩や外気浴なども、日常生活に潤いを添えています。居室の中心に広々とした居間があり、テーブルの椅子は、身体の状態に対応した工夫が施されています。職員は利用者の思いに常に寄り添う姿勢を大切に、支援する姿勢を基礎として共有しており、一人ひとりの在るがままの暮らしぶりを支えながら、身心の安全・安心な生活への配慮に努めています。また、行政や地域と相互に協力しながら、地域の中で活動する施設として前進的な取り組みに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度の理念の継続が決定し、職員が利用者への対応に悩んだときの基本になるように理念をかかげている。	「元気がとびだす ももたろう」を法人のキャッチフレーズに、地域相互の関係作りに取り組んでいます。『ゆっくり、じっくり、その人に寄り添える介護』を基本に、温かな家庭(施設)での暮らしぶりに着眼しながら、日々の支援に励んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が気軽に立ち寄れる環境作りに努め、地域行事には積極的に参加している。	日常のご近所付き合いや、小中学校との交流、地区行事への参加、中学の職場体験・実習生の受け入れやボランティアの訪問等、積極的に取り組んでいます。地域との心の通い合う交流の大切さを把握しており、尽力している様子が伺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽に立ち寄り、相談できるような環境作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や家族にも定着してきた感があり、話し合いもスムーズになってきた。区長さんが変わり参加がなく、理解に努めている。	2ヶ月毎に開催される会議では、施設の現況報告や意見交換等が行われ、参加者との相互理解を深めながら、地域に根付いた関係づくりに努めています。施設の質の向上に向けて、積極的に活用して行きたい意向も伺えます。	構成メンバーの参加の現状については、努力している様子が伺えます。地域の中で暮らし続ける利用者のサポートの一環として、地域に根ざした会議の向上に、さらに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連携をとり、所長も連絡協議会の会長も務め、日々、協力関係を築いている。	生活保護受給者への面会や、介護保険・後期高齢者等についてのアドバイスを受けるなど、必要性に即しての対応が図られる中で、相互の交流が積極的に営まれている様子が伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	なし、外出についても制限なしである。	「行動を可能な限り制限しない介護」をモットーに取り組んでいます。新人職員研修をはじめ、全職員間で日常的に言葉の大切さへの周知が図られる中で、利用者の心に寄り添う支援の実践に励んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待についてはもちろんのこと。特に気づきにくい言葉の虐待について職員に厳重に注意するよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所長が成年後見業務にたずさわっており、職員も内容は十分理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて提示し十分な説明を行なっている。家族も理解してくれている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・希望は反映できる方法を考え十分な話し合いのもと実現している。	家族との相互のコミュニケーションを大切に、希望・要望や意見の把握に努める中で、常に利用者本位の支援を目指しながら、一人ひとりの思いを尊重した介護の実践に取り組んでいます。	家族会の開催(相互交流や意見交換等)への実現に向けた取り組み、志の実現に期待が持たれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・職員会議をその機会にあてている。	『介護技術と気づき支援』による介護資質の向上に努める中で、職員間の交流から得る学びの姿勢を大切に、実践に取り組んでいます。個々の職員の個性を活かしながら、自身のスキルアップを支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に観察し、副所長は現場にて業務し、状況を所長に報告し、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	つきに1回の職員研修(職場内)他外部の研修にできるだけ参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3施設でぶんごおおの小規模福祉ネットを形成し、勉強会・相互訪問を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族に自由に見学・体験をしていただき、なるべく、本人が納得して利用してもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な説明、話し合いを行い、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人との十分な話し合いにより必要な支援の見極めを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として常に考え、行動するように指導している。また、職員もそのことを十分に理解しており、その環境作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もスタッフの一員の考えから、出来るだけ家族と協力しながらの支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解のもと、自宅で過ごす時間を可能な限り作るよう努めている。	家族と過ごす時間や関わりを大切に捉えています。また、馴染みの人や場所の把握に努める中で、利用者の意向や思いを考慮しながら、気持ちに寄り添える支援の実現に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日、その時の状況に合わせた環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方への訪問等実施し、依然良い関係を保ち、また、退所後も訪問できるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、その瞬間を大切に、その人の希望することの実現に向け常に考え行動している。	家族や利用者一人ひとりの心の触れ合いを大切に、相互の繋がりや支援に努めています。利用者の折々の思いに気付ける職員が『目配り・気配り』を介護の糧として、実践に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人より十分な聞き取りを行い、日々ケアに活かしていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のその人の状況を理解し、その日のその人にあつた対応ができるよう。常に把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に家族の意見を尊重しながら月に一回のミーティングで十分に話し合い、必要があれば医療機関・市等に相談する。	利用者一人ひとりの思い・心身の状態と家族の要望等を把握した上で、個々の職員がチームとしての意識の中で話し合いながら、計画の策定に取り組んでいます。家族への説明や、プランの検討や見直しも行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきの部分までの記入のため何でもノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28	+++	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応は、法人の介助の方針であり、その日・その時の対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に把握するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべて、本人・家族が決定し、その希望に合わせて医療機関との密な連携に努めている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となり家族対応の受診が出来ない時には、同行し普段の様子や変化を伝え、適切な医療が受けられるように取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置が無い場合、小規模多機能の看護婦に相談するか、協力医療機関への相談、支持で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関とも良い関係を保っており、連携も保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期についても家族・本人が希望する場合は、十分な話し合いのもと、可能な限りの支援に努めている。	家族、本人の希望に可能な限りの支援が行えるように努められています。	重度化や終末期の支援への取り組みについて、医療、家族、職員間での密な話し合いがもたれ、情報の共有ができる支援への取り組みが今後も行えるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関とも常に話し合い、対応に努め訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制を推進会議を利用し、お願いすると同時に、マニュアルも作成する。	地域の消防団との協力体制もあり、日々の生活においても「火災を発生させない」を大切にし火の元の確認を職員の統一事項とし、取り組まれています。	夜間を想定した避難訓練を消防署と一緒に計画があるとの事で今後の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分な注意を払い、その人にあった言葉かけを行なうよう努めている。	一人ひとりの生活歴を重視し、呼びなれた名前でお呼びしたり、方言が使われる方には方言で又、トーンを下げその方が理解し易い言葉での声掛けが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を最優先して考えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時を大切に、本人の希望をかなえられるよう考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に意識して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に、個人の状態・状況にあわせた食事を提供している。	近隣の方からは常に食材のおすそわけがあり、季節感が味わえ、月の初めにはお赤飯、終わりにはお刺身、誕生日にはその方の好物をお出しするなど、食事で季節や楽しみが味わえる様に取り組みられています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関との相談のもと本人に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは常に声かけ・援助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをケース記録に記入し、把握をして出来るだけのトイレでの排泄に努めている。	個人の排泄パターンの把握が出来ており、「排泄のコントロール」の大切さを職員間で共有し、その方のペースを作りながらトイレでの排泄支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と常に連絡・相談をしながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日を通して、本人が入りたい時、その気になった時に入れる対応をしている。	一人ひとりの気持ちや希望、体調、などに配慮しながら何時でも入浴が出来る体制を整えており、訪問してきた孫達との入浴も出来るなど、アットホームな取り組みが行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人にあった椅子等を考え、休息していただき、安眠についても体調に関してとても大切な部分と考え、常に支援に務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、職員で管理しており誰が見てもわかるように工夫している。また、服薬の確認はケース記録に記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは自分でを基本とし、畑の作業等も行い、誕生日にはその人の好物を出すようにしている。また、いつでも本人がほしいものは買物にいけるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外部の環境をいかし、外への散歩は日々の日課のように行っている。外出機会は出来るだけ多くするよう心がけ、地域行事にも積極的に参加している。家族との外出のような環境づくりに努めている。	環境を活かし、毎日散歩が出来る支援や季節毎のドライブや年に1回、家族の方々とのドライブ等外出の機会を積極的に取り入れた支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況・家族との話し合いにより、本人が所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に本人の居心地を考えながら工夫している。	共有の居間の壁面には一人ひとりの特徴をとらえた似顔絵、外出先での楽しい笑顔の写真が飾られています。また、立ち上がりやすい様に一人ひとりにあった椅子やお気に入りの椅子を用意し、ゆっくりと過ごせる様に工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係等を考えながら本人の心地よい居場所の確保をするよう努め、一人になるためには自室で対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に本人の状況に合わせ、常に家族と話し合い工夫している。	1日ベッドで過ごす方には好きな音楽が常に聴ける様に、職員の声かけが行われており、又居間で過ごされている方の声や様子が伺えるように、ドアを開け孤独感を味わう事のない様に取り組みられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境を崩さぬよう、安全に過ごせるよう工夫している。		